

当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第80号

発行:2021年10月30日  
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
〒739-0147 副住職 天野英昭  
東広島市八本松西6丁目10番1号  
☎・FAX 082-428-1360

## 報恩講並びに秋季永代経法座

親鸞聖人のお法りを喜ばせていただきますよう

日時 11月16日(火) 9:00~15:00頃

ご講師 北山 祐章師(福山市沼隈 光源寺住職)

朝席 9:00~11:30

とき  
お斎(お食事)は、コロナのため、中止にさせていただきます。

昼席 13:00~15:00

## 第111回歎異抄輪読会

日時 11月18日(木) 14:00~15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

## 除夜会並びに元旦会

日時 12月31日(金) 23:30~24:30頃

場所 天龍寺 本堂

仏教壮年会定例会 日時 11月30日(火) 19:00~20:30

お詫び並びに感謝申し上げます。

今年の8月12日(木)に磯松天龍寺墓苑並びに合同墓(永代供養墓)合同参拝を実施することになっておりましたが、大雨により急遽中止になりました。ご連絡ができない方、並びに雨の中ご参詣をいただきました方々に、書面をお借りしお詫び並びに感謝申し上げます。

# 無常を觀ずるは菩提心の一なり I

度々申してきましたが、勤務していましたが学校を早期退職させていただき 12 年が過ぎようとしております。

当山はお寺ですので、この 12 年間に様々な年代の方のお葬儀のご縁をいただきました。「老少不定のさかい」という言葉がありますが、老いも若きもこの境涯における、明日の生命の保障はないという事を私なりにご指南いただいたことであります。

しかし、ご当家ご当家の、親しい方、大切な方との別れの悲しみ、寂しさ等は、失礼とは存じますが、私の立場で言えるものではないと思うことであります。

お気を悪くされましたらご理解をいただければ、ありがたいと存じますが、私の拙い人生を振り返り思いますことに、おぎゃーと生まれ、物心ついた頃から「小さな幸せ」を求め、勉強をし、学校を卒業し、働き、結婚をし、子供ができ、退職をし、現在はお坊さんをさせていただいております。

しかしながら、一時的な幸せを得ても、残念ながらこの境涯は、「娑婆」であり「堪忍土」の世界を生き続けていかななくてはならないのだと還暦を過ぎ実感をしております。

親鸞聖人は、この一度の人生を海にたとえ「生死の苦海」「難度海」と表現をされております。近頃、このお言葉を自分なりに受け止めることです。

一度の人生を飛行機での旅行にたとえてお話をいただいたことがあります。おぎゃーと生まれ、飛行機に乗り出発をし、より長く、より快適に飛行することを願い、乗っている飛行機が、どこに着陸することも知らず、ただただその願いを持って飛行をします。しかし、いつかは燃料が切れ、乗っている飛行機も着陸しなくてはなりません。そのお話をお聞きし、本当に人の人生も同じような物かと考えさせられたことがありました。

その意味でも「往生浄土への道」をお示しいただいていることもありがたいことと思うこともあります。

しかしながら一方で、この歳になっても、日々健康・財産・家族等のことに振り回されながら生きている自分に気づかされることもあります。娑婆の縁が切れるまで、このようなことに振り回されながら生きていかざるをえない存在、「人間存在の哀しさ」をこの歳になり感じることもあります。

今申しました「難度海」を人生にたとえて考えてみますとおぎゃーと生まれ、海を渡りはじめ、いくつもの小さな波、大きな波を、歯を食いしばって超えながら、健康・財産・家族・人の心等々、という板切れにしがみつきのながら何とか海を泳いでいるとも考えることがあります。

しかし、「諸行無常」の言葉の通り、この世の全ては、常にあらざる物であり、今しがみついている板切れが、いつ流され・ひっくり返るかもしれないと不安に思いながら、ひたすらこの海を泳いでいる自分であると思うことです。(次号に続きます)